



# 花みずき

本庄総合病院だより

発行日：平成17年12月1日  
発行者：石原通臣  
編集者：広報委員会  
後藤利和  
第15号  
住所：本庄市北堀1780  
TEL：0495-22-6111(代)  
<http://homepage3.nifty.com/honjogh/>

## 院長に就任して

病院長 石原通臣



福島理事長より院長を拝命した石原です。加部前院長が長年にわたり培ってこられた病院を引き継ぐに当たり、心引き締まる思いです。

私は昭和42年日大医学部を卒業し、インターン修了後日大の第一外科に入局し、小児外科を専攻しました。出張した春日部市立病院で当時外科部長の加部先生から厳しく外科の初歩を教えて頂きました。学生時代、山岳部に所属し、卒業後早稲田大学のネパール調査隊の一員になった経験があります。

昭和62年から都立大塚病院で小児外科医として13年間勤務後、平成12年に都立大久保病院の副院長、2年後院長となり、平成17年7月定年退職しました。都立大久保病院は平成16年に都立から東京都保健医療公社へ運営移管しました。公社は地域医療連携推進を理念としており、開放型病床の開設、返送逆紹介の推進、地

域医療支援病院取得へ向けた取り組みを行ってきました。これらの経験を生かしていきたいと思っています。

院長就任に当たり、職員の皆さんにふたつのお願いがあります。ひとつは患者さんを含め、職員間の良好なコミュニケーション、ふたつめはマンネリにならず常に新たな取り組みをして頂きたい。

患者さんを含めた職場間の良好なコミュニケーションは医療の安全にも繋がります。初めての患者さんには自己紹介をし、職員間同士も笑顔で挨拶して下さい。

マンネリにならず、常に新たな取り組みをし、後進の指導を宜しくお願いします。

本庄市の唯一の総合病院です。医療連携をより充実し、救急医療に積極的な取り組みをし、患者さんを中心とした安全な医療と職員の皆さんが働き甲斐のある病院にするよう取り組む所存です。院長室のドアはいつも開いています。建設的な意見、相談事はいつでも大歓迎です。

(8月1日院長就任挨拶より)(病院長)

## この時期でもハチに注意を

外科 加部吉男

今年の夏は暑く、雨が少なかったためスズメバチの繁殖が旺盛で、大変多くの方々が、刺されて来院されました。11月になっても刺されて治療に来院されますが、これは飛んでいるハチに刺されたのではなく、干してある洗濯物で日向ぼっこしていたハチを、知らずに取り込んだためです。

日本全国では毎年30人から50の方がハチに刺されて亡くなるのをご存知でしょうか。マムシやクマとは比較にならない数なのです。

人がよく刺されるのはスズメバチ、アシナガバチ、ミツバチですが、スズメバチの被害数が多く、反応も強いです。

ハチに刺された時の症状は、ハチの毒による直接作用とアレルギー反応があります。前者は刺された部位が赤く腫れ、強い痛みを訴えます。刺された個所が多かったり、小児の場合は嘔吐や下痢、呼吸困難などの全身症状が見られる事が有ります。



スズメバチ

また、後者はハチの毒の中に含まれる物質と、人の血清中の抗体とが反応しあって、丁度ペニシリンショックでご存知のアナフィラキシー反応となり、低血圧、ショックから死に至る事もあります。

一般に、一度刺されてから一ヶ月前後でまた刺された時、特に頭や首を刺された時、重症になる率が高いと言われています。

刺された時はその部位を強くつまみ、早く毒を押し出し、流水で流す事が重要です。ハチの毒は中性に近く、アンモニアは効果ありません。

アナフィラキシー反応は刺されてから短時間で起こりますので、早く医療機関を訪れた方が良いでしょう。

先ずスズメバチに刺されないようにする事が最も大切で、そのためにはハチに近づかず、刺激しない事です。ハチは黒くて動くものを攻撃する性質がありますし、香水や整髪料で興奮すると言われていたもので、注意が必要です。(名誉院長)

## 高齢者に多い皮膚疾患

皮膚科 樋口 由美子

高齢者にみられる皮膚疾患には老人性といわれる生理的な変化と病的な疾患とがあります。老化は加齢により徐々に出現し、老徴を表します。外来で多く見られる疾患を幾つか挙げてみましょう。

老人性乾皮症、乾皮症性湿疹

加齢により皮脂や汗の分泌が減少し、皮膚が異常に乾燥した状態を言い、掻きこわした状態が湿疹です。すねや腰などに好発し、冬にひどくなり、夏は軽快します。

老人性色素斑

顔面にみられる黒褐色～茶褐色の色素斑です。紫外線によりさらに大きく濃くなり、将来、皮膚がんが発生することもあります。

老人性疣贅(いぼ)

顔面、頭部、首、脇などに多くみられる淡褐色～黒褐色のいぼ状皮疹です。悪性になることはまれですが、小さいものが強い痒みを伴って、全身に短期間に多発してくる場合はがん検診の必要があります。

老人性苔せん化皮膚

皮膚の老化により生ずる、臀部のザラザラした硬い皮膚で自覚症はありません。

皮膚がん、がん前駆症

加齢や長い間の紫外線の影響により、近年、世界的に増加しています。顔面に元々あったイボのようなものが急に大きくなったり、出血したり、形がくずれて来たときは早めに皮膚科を受診して下さい。

かいせん(疥癬)

かいせん虫というヒゼンダニのヒトからヒトへの感染により起こります。手足の指の間、腕、脇、下腹部、股、太ももなどに痒みの強いブツブツが多発します。爪にも感染して白く厚くなります。痒みは夜間に強いのが特徴です。近年、老人施設で増加しています。

以上は代表的な皮膚疾患のごく一部です。皮膚で気になることがありましたら、あまり放置せずに、気軽に皮膚科を受診してみてください。

(皮膚科医長)

# リハビリのいろいろ

## ～作業療法の紹介～

リハビリテーション科 白田 恵美子

作業療法とは、病気やけがにより生活に支障を来たした方々に対して、自立した生活が行えるように援助していくリハビリテーションのひとつです。

作業療法の仕事内容をご紹介します。

身体機能の回復を促します。

革細工やまくらめなどの作業を行い、筋力をつけたり、指の細かい動きの獲得を目指します。

残された機能を活かし、身の回りの動作を訓練・指導します。

力が弱くてスプーンが握れない場合、太い柄のスプーン（自助具）を使って食べられるようにしていきます。

半身が麻痺して靴が履けない場合、麻痺した足を組んで靴を履く方法を練習したり、また、トイレでふらつく場合には、実際使用するトイレで安全に行えるよう指導し練習します。

作業活動を通じて、意欲の改善を促します。

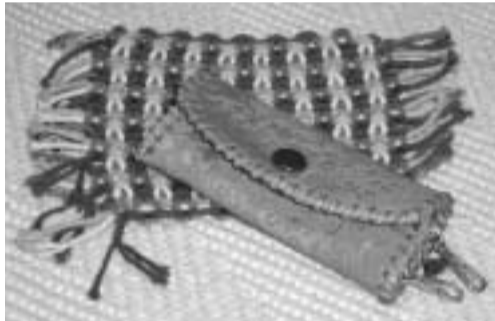
長期入院や障害により、失われやすい意欲の維持・改善を図ります。

患者さんによって障害の程度や出来る能力が異なります。その方にあった環境や方法を変えることで自立できることがあります。少しでも主体的な生活を送れるように、力になっていきたいと思っています。

リハビリ室は北病棟一階にありますので、お気軽にお越し下さい。

（作業療法士）

まくらめと革細工



（患者さんの作品です）

## 機能評価受審に向けた看護部の取り組み

看護部 粕谷 照枝

近年の高齢化社会の中で、医療制度は保健・医療・福祉を包括するシステムの確立に向かって動き出しております。当院看護部でも独自の業務を大きく見直し、自らが志向しながら専門性を持って機能的・効率的かつ効果的な看護内容へと改善を迫られています。

病院機能評価受審にあたり、私たち看護部は、地域の人々に支持される特色のある病院づくりや、患者さんが納得する医療・看護を提供するために、具体的にどのような役割を果たさなければならないのかを考える機会を与えられました。

私たちはややもすると日々多忙なあまり事務的に消化しがちな看護業務を反省し、互いに点検・確認し合うことで、「患者さんに喜ばれる看護・患者さん中心の医療」を探求することを最大の目標にかかげ、取り

組んでいきたいと考えております。

つまり、看護業務は日々の診療の中での補助業務にとどまらず、患者さんの回復を阻害する要因を可能な限り排除し、患者さんの自然回復力を支援していくといった看護本来の基本にもどり、実践していくことが重要であると思っております。

近代看護の創始者フローレンス・ナイチンゲールは「看護とは新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさを適切に保ち、食事を適切に選択し管理すること こういったことのすべてを患者の生命力の消耗を最小にするように整えること」「患者が生きるよう援助すること」とうたっています。看護部自らを変革し、病院全体がめざす患者さん中心の医療に自信を持って独自の看護を提供できるようにしていきたいと考えております。

（主任）

## セレクトメニュー

栄養科 附田 良子

当院では、患者さんの食事に対する満足度を高める為に、セレクトメニュー（選択食）を平成16年6月から手探りの状態でスタートしました。幸いにも、オーナー、当時の加部院長の協力を得まして、平成16年11月から毎夕食のみ、平成17年5月からは、日・水・金の昼食と毎夕食に、10月から日・月・水・金・土の昼食と毎夕食にセレクトメニューを取り入れ現在に至っております。

提供する食事は、常食と全粥食を対象に、献立はAとBの2種類（例、A豚肉の口ペール風、B焼魚）で、B食が高齢者を意識した基本食、A食では季節のものや栄養士・調理師のアイデアを生かした料理等、新しいメニューの開発を試みています。

セレクトメニューの希望は一週間毎にまとめていただいております。注文表には料理名の他に、料理のイメージが伝わるようにコメントを入れています。毎週金曜日の昼にお盆にのせて下膳時回収されます。回収された注文表の中には、パズルでもしているような書き方で集計者泣かせの方もおいでになります。写真付きの注文表だともっとわかり易いのかもかもしれませんので今後、検討していきたいと思っております。

セレクトメニュー365日実現（平成18年2月）に向けて、更に、治療食（糖尿病・減塩食等）へも展開していきたいと思っております。

（管理栄養士）

## ご意見箱

総務課 江坂 茂

当病院では、患者さんやそのご家族から病院に対するご意見・苦言・ご要望を気兼ねなく伝えていただくため、1階ロビー、各病棟に「ご意見箱」を設けています。お寄せ頂きましたご意見は、病院長、事務長、並びに担当部署責任者が拝読し、職員に周知させるとともに、その結果を可能な限りロビーの掲示板に「ご意見箱の声に対する回答」として掲示させて頂いております。地域の皆様にとってよりよい病院づくりの糧とさせて頂きたいと存じます。よろしくご協力をお願いいたします。

（庶務係長）

### 関連施設

本庄福島病院  
内科・小児科・療養型 96床  
本庄市千代田1-1-18 ☎0495-22-5211

介護老人保健施設  
あやその彩の苑  
入所定員 100床  
本庄市千代田1-1-21 ☎0495-23-3988

伊勢崎福島病院  
内科・神経内科・胃腸科・循環器科・外科・整形外科・歯科  
リウマチ科・リハビリテーション科・泌尿器科 272床  
伊勢崎市大手町18-10 ☎0270-24-3456

熊谷福島病院  
内科・療養型 93床  
熊谷市宮前町1-135-2 ☎048-525-2522

上武病院  
精神科・内科・歯科 537床  
本庄ナーシングホーム 114床  
本庄市小島5-6-1 ☎0495-21-0111